森の原（もりのはら）遺跡（第３次）

遺跡番号	208-048
調査次数	第３次
所在地	山形県村山市大字土生田字鼠田
北緯・東経	38 度 33 分 34 秒・140 度 23 分 53 秒
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課
起因事業	道路改良事業　一般道大石田土生田線 村山大石田インターチェンジ設置工事
調査面積	2,000 ㎡
受託期間	平成 23 年５月７日〜３月 29 日
現地調査	平成 23 年７月２日〜９月 14 日
調査担当者	大場正善（現場責任者）・岩崎恒平
調査協力	国土交通省・NEXCO 東日本・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代・平安時代・中世
遺構	土器片集中・河川跡・土坑・湿地跡
遺物	土師器・須恵器・縄文土器・石器・陶磁器・古銭　（文化財認定箱数：4 箱）

遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

森の原遺跡は、村山市北部の土生田字鼠田に所在する。遺跡から西約 1.2km 離れたところには、最上川が流れている。地形的に遺跡は、山形盆地の北端、最上川の三難所よりも下流に発達する氾濫原の中に立地している。

今回の調査は、平成 22 〜 23 年度の調査区の東西に隣接し、インターチェンジを設置する２か所（1 区、および 2 区）、約 2,000 ㎡が対象となる。なお、隣接する平成 22 年度の１次調査は、本線部分に沿って走る取り付け道路部分、そして平成 23 年度の第 2 次調査は、高速道路本線部分となる。

遺構と遺物

２区の北側では、黒色粘土（黒色の泥）が堆積した湿地跡が発見され、11 世紀後半の北宋で発行された「元祐通寶」という古銭が 1 点出土した。2 区の北側、湿地跡の下に、915 年に十和田湖から噴出した灰白色火山灰（To-a）と考えられる火山灰をはさむ、小規模な河川跡（SG1011）が発見された。また、2 区の中央部では、幅約 2m、深さ約 1m ほどの鍋底状を呈した大きな土坑が 3 基発見された。

さらに遺跡全体を覆う堆積層からは、最上川の氾濫によって押し流されてきた土砂（泥流）が重なっているのが確認された。1 区の南側では、土砂堆積の１つである黒色土層の中から、縄文時代晩期に位置づけられる土器片や破損した磨製石斧など、多数の遺物が狭い範囲で分布しているのが発見された。また、2 区の南側では、珪質頁岩製の石のカケラや石器未製品、玉髄製石鏃が出土した。遺物が出土した地層は、氾濫によって堆積したものであり、遺物が集中している場所の近くには、住居跡などの遺構があった可能性がある。